

[シラス]

1. 経年経過及び平成 27 年 1～2 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 26 年は 794 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 12 年の 1,407 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14 年は 396 トンまで減少しました。その後平成 15 年以降は増加傾向を示し、平成 19 年は 2,374 トンと好調に推移しましたが、その後は減少傾向を示し、平成 26 年は 1,247 トンとなりました。

西薩海域の漁況は、1 月は前年・平年を上回る水揚げがありました。2 月は水揚げがなく、カタクチシラス主体で 26 トンの水揚げで、平年の 142 % (前年は水揚げ無し) でした。

志布志湾海域の漁況は、2 月が低調で、カタクチシラス主体で 72 トンの水揚げで、前年の 95 %、平年の 101 % でした。

2. 平成 27 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年を上回り、志布志湾海域は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

西薩海域では本年 3 月の卵稚仔調査でのカタクチイワシ卵の出現状況、カタクチイワシ親魚の来遊状況から、前年・平年を上回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、前年・平年を下回ると考えられます。

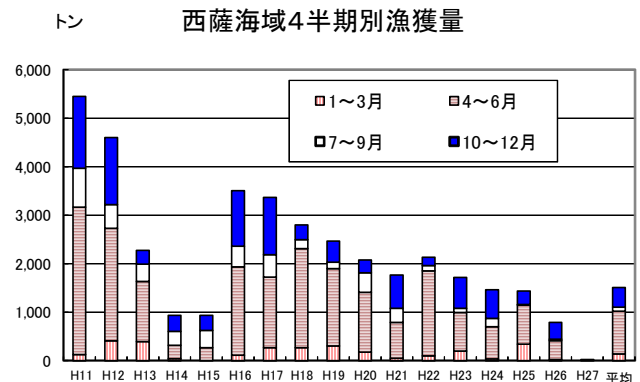
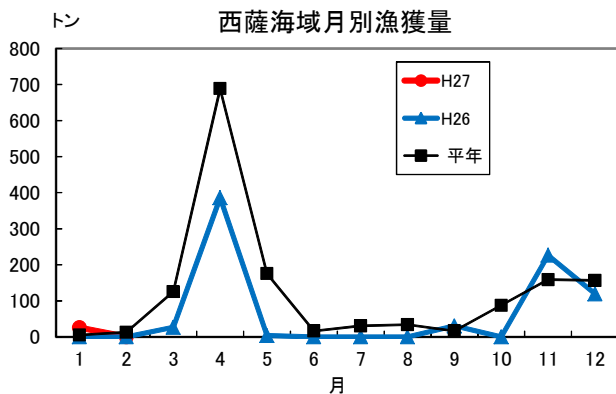


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4 漁協計)

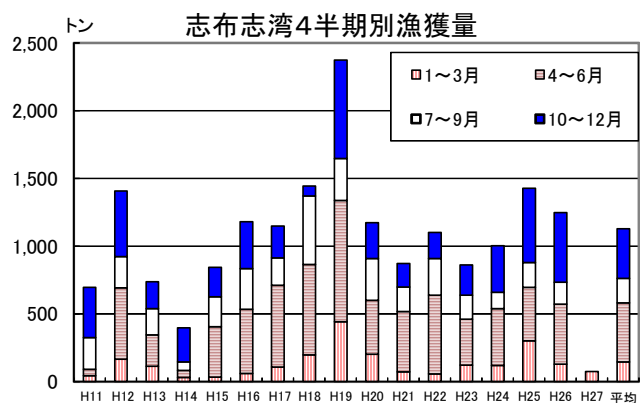
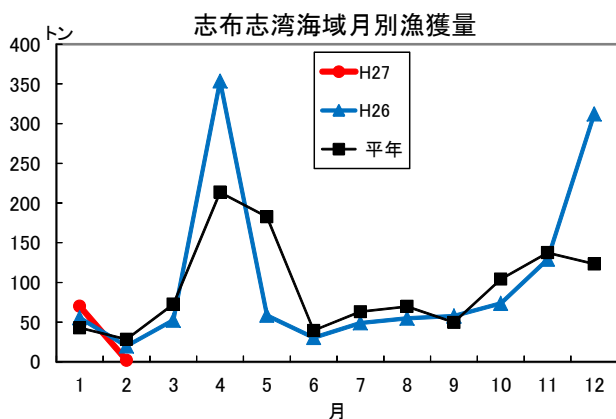


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2 漁協計)

※平年値は過去 5 年 (平成 22～26 年) の平均値 (AV), 平成 27 年 2 月 28 日までの水揚量を使用